



兵庫県指定文化財 「青谿書院」のシンボルツリー モミの後継樹が里帰り

りんぼく
— 林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組 —

ポイント

兵庫県指定文化財「青谿書院」(兵庫県養父市)にあったモミが枯死し、平成30年10月に伐採されました。このモミの後継樹の苗木が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場(岡山県勝田郡勝央町)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、青谿書院保存会・養父市教育委員会からの増殖の要請を受けて「青谿書院のモミ」の後継樹として、つぎ木により増殖し育てた苗木が里帰りします。

里帰り日時及び場所 日 時：令和4年 3月3日(木) 13時30分～(雨天決行)
場 所：兵庫県養父市八鹿町宿南171 養父市青谿書院記念館
里帰りする苗木本数 つぎ木増殖苗 2本

お問い合わせ先

- 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター
関西育種場(平日 8:30~17:15)
事業責任者：遺伝資源管理課 課長 坂本 庄生
担当者： 収集管理係長 山本 あゆみ
広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 林 勝洋
Tel：0868-38-5138 Fax：0868-38-5139
- 養父市教育委員会
担当者：社会教育課 文化財グループ 山根 実生子 ・ 谷本 進
Tel：079-664-1628 Fax：079-664-1147

本資料は、兵庫県政記者クラブに配付しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センター^{りんぼく}では、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 306 件の要請があり、229 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 2 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする後継樹の親木は、兵庫県指定文化財の青谿書院の庭に植えられたモミです。青谿書院は、但馬聖人と呼ばれる幕末の儒学者 池田 草庵（そうあん）が 1847 年（弘化 4 年）に開いた塾で、開塾の記念としてモミ・マツ・カシの常緑樹 3 本が植栽されました。マツとカシは枯れ、残ったモミも平成 26 年頃から樹勢に衰えが見られ、平成 28 年から樹木医が樹勢回復を行いました。このままでは枯死の危険があると考え、後継樹苗木の育成を提案しました。

そこで所有者である青谿書院保存会と養父市教育委員会より、平成 29 年 2 月に関西育種場へ林木遺伝子銀行 110 番の利用申請がありました。同年に採取した枝をつぎ木し成功しましたが、生育状況が芳しくありませんでした。改めて平成 30 年 2 月に枝を採取してつぎ木したところ成功し、順調に成長した苗は野外に植栽しても生育できる見込みが立ちました。

令和 2 年度に里帰りを予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により状況が困難であったため、養父市教育委員会より里帰りの準備が整う令和 3 年度に延期したいと要望がありました。そしてこの度、つぎ木増殖した後継樹苗 2 本が里帰りすることとなりました。

図、表、写真等



青谿書院のモミ（親木・枯死）



つぎ木の様子



里帰りする後継樹の苗木